

2026 年度

コミュニティソーシャルワーカー (CSW)
スキルアッププログラム シラバス

東北学院大学

1. 本プログラムの目的について

地域資源を有効に活用した地域の福祉力活性化を達成するためには、関係者・関係機関等との連携を図るコーディネーター（コミュニティソーシャルワーカーなど）の実践力向上が重要です。

本プログラムは、宮城県社会福祉協議会や仙台市社会福祉協議会等と連携し、現場の課題に直結する授業内容をもって、まちづくりのキーパーソンとなる「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」の実践力をスキルアップさせるものです。

2. 本プログラムのカリキュラムポリシーについて

本プログラムは以下のカリキュラムポリシーによりプログラムを編成しています。

（1）基礎科目

福祉政策の動向や最新の理論研究の流れを踏まえて、地域福祉の基礎を学ぶ。

（2）必須理論

地域の姿を把握する方法を学修するとともに、地域福祉活動計画の策定方法等を実践的に学ぶ。

（3）実践技法

他者と協働するための知識や技法を学び、地域社会を構成する多様な関係者との協働を促進させる技術を修得する。

（4）特論演習

地域における様々な支援事例をもとに、多面的な角度から地域福祉のあるべき姿を総合的に検討する。

（5）事例研究

地域福祉の現場で実際に起きた事例を実務家が紹介し、様々な角度からその実例を研究する。

3. 修了要件と履修証明書の交付について

本プログラムは、学校教育法第105条等に基づく履修証明プログラムであり、文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されています。プログラムを修了するためには、120時間以上の授業を履修し、各科目において提出するミニッツペーパーの点数が60点以上であり、かつ最終報告会で合格の評価を得ることが必要です。全ての修了要件を満たした者に対し、履修証明書が交付されます。

2026年度「コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラム」科目と講師一覧

分類	科目名	担当講師	時間数	ページ	
基礎科目	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク	阿部 重樹(学校法人東北学院常任理事(総務担当))	3	1	
	コミュニティソーシャルワークⅠ	村山 くみ(東北福祉大学総合福祉学部准教授)	3	2	
	コミュニティソーシャルワークⅡ		3		
	ケースワーク	竹之内 章代(東北福祉大学総合福祉学部教授)	3	3	
	社会保障制度の新たな動向Ⅰ	阿部 裕二(東北福祉大学総合福祉学部教授)	3	4	
	社会保障制度の新たな動向Ⅱ	宮城県、仙台市	3		
	コミュニケーション基礎論とICT活用	坂本 泰伸(東北学院大学情報学部教授)	3	5	
	必修科目	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅰ	鈴木 寿則(仙台白百合女子大学人間学部教授)	3	6
		データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅱ		3	
		データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅰ	黒坂 愛衣(東北学院大学地域総合学部教授)	3	7
		データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅱ		3	
		地域の施策と資源理解Ⅰ	武藤 哲哉((社福)宮城県社会福祉協議会みやぎハートフルセンター副施設長)	3	8
		地域の施策と資源理解Ⅱ	早川 敏((社福)仙台市社会福祉協議会事務局次長・総務部長)	3	
地域社会とCSR(企業の社会的責任)		矢口 義教(青森公立大学経営経済学部教授)	3	9	
組織運営		櫻井 雅充(東北学院大学経営学部教授)	3	10	
地域福祉活動計画Ⅰ		早川 敏((社福)仙台市社会福祉協議会事務局次長・総務部長)	3	11	
		佐々 利春((社福)富谷市社会福祉協議会事務局次長)			
地域福祉活動計画Ⅱ		増子 正(東北学院大学地域総合学部教授)	3		
地域アセスメント		森 明人(東北福祉大学共生まちづくり学部教授)	3	12	
ファンリテーションの理論		渡邊 一馬((一社)ワカツク代表理事)	1.5	13	
実践技法	地域福祉とファンドレイジングⅠ〔遠隔授業〕	久津摩 和弘 (一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET理事長)	3	14	
	地域福祉とファンドレイジングⅡ〔遠隔授業〕		3		
	協働の手法Ⅰ	遠藤 智栄((株)ばとん代表取締役・まちづくりアドバイザー)	3	15	
	協働の手法Ⅱ		3		
	ファンリテーションの実践	渡邊 一馬((一社)ワカツク代表理事)	3	16	
	健康格差論	鈴木 寿則(仙台白百合女子大学人間学部教授)	3	17	
	コミュニティビジネス	吉澤 武志((一社)筆甫地区振興連絡協議会事務局長)	3	18	
	臨床宗教学(聴くチカラカフェデモンの事例から)	金田 諦應(曹洞宗通大寺住職)	3	19	
	対人コミュニケーションと心理的援助	臼倉 瞳(東北学院大学人間科学部准教授)	3	20	
	発達障がい者支援	皆川 美雪(福島大学学生総合相談室カウンセラー)	3	21	
	ソーシャルワーク・スーパービジョン	塩村 公子(東北福祉大学名誉教授)	3	22	
	認知症の理解と地域支援	石原 哲郎(脳と心の石原クリニック院長)	3	23	
	選択科目	特論演習:高齢者支援と地域社会	西澤 英之((一社)宮城県社会福祉士会常務理事・事務局長)	3	24
特論演習:生活困窮者支援と地域社会		後藤 美枝((一社)パーソナルサポートセンター自立相談支援部長)	3	25	
特論演習:子育て支援と地域社会		小岩 孝子((特非)FORYOUにこにこの家理事長・事務局長)	3	26	
特論演習:障がい者支援と地域社会		伊藤 清市((社福)宮城県障がい者福祉協会副会長)	3	27	
特論演習:精神障がい者支援と地域社会		菅原 里江(東北福祉大学総合福祉学部准教授)	3	28	
特論演習:SDGsと地域社会		紅邑 晶子((一社)SDGsとうほく代表理事)	3	29	
特論演習:災害とコミュニティソーシャルワーク		渡邊 圭(東北学院大学情報学部准教授)	3	30	
特論演習:三次救急病院からの地域移行支援		澤井 彰(仙台市立病院救急認定ソーシャルワーカー)	3	31	
特論演習:支援技術を活用した障がい者支援		高橋 俊史(東北福祉大学共生まちづくり学部講師)	3	32	
事例研究:仙台市におけるコミュニティソーシャルワーク		小川 琢也((社福)仙台市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長)	3	33	
事例研究:南三陸町におけるコミュニティソーシャルワーク		高橋 史佳((社福)南三陸町社会福祉協議会事務局長)	3	34	
事例研究:柴田町におけるコミュニティソーシャルワーク		相原 美由紀(柴田町地域包括支援センター管理者)	3	35	
事例研究:地域活動とコミュニティソーシャルワーク		増田 恵美子(Naritaマルシェ代表)	3	36	
事例研究:成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク	千脇 隆志(社会福祉士事務所いろは代表)	3	37		
事例研究:東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーク〔遠隔授業〕	田中 慎吾((社福)豊島区民社会福祉協議会共生社会課長)	3	38		
事例研究:ボランティア活動支援の実際	渡邊 圭(東北学院大学情報学部准教授)	3	39		
必修	ガイダンス	渡邊 圭(東北学院大学情報学部准教授)	1.5	40	
	中間報告会(グループワーク)		3	41	
	最終報告会(グループワーク)		3	42	

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類	基礎科目			
必選区分	必修科目			
科目名称	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク			
担当者	阿部 重樹:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助・公助の福祉ミックス ・地域福祉をめぐる政策の動向 			
講義内容	<p>1990年代に入り加速化した福祉改革により地域福祉の時代を迎えることとなりました。これら福祉改革の集大成として位置づけられる社会福祉法の制定(2000年)を契機として、ここに本格的な地域福祉の時代の到来が宣言されたといえます。この社会福祉法に規定された地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定の過程において、コミュニティソーシャルワークの重要性もまた再認識されることとなりました。これらの背景となったノーマライゼーション理念の浸透、本格的な人口減少・少子高齢社会の到来、新たなサービス給付と負担の関係構築、自助、共助、公助の福祉ミックス等の政策動向を学ぶとともに、こうした文脈の中にコミュニティソーシャルワークの持つ意義を学びます。</p>			
達成目標	<p>2010年以降の人口減少・少子高齢社会の急速な進展を背景として迎えた、「地域共生社会の実現」という新しい地域福祉の時代におけるコミュニティソーシャルワーカーに対する社会的要請を、様々な角度から理解する。また、多様な状況の変化の中で、コミュニティソーシャルワーカーが果たす機能と意義について理解する。</p>			
授業計画	授業計画第1回	はじめに 一慈善組織協会(Charity Organization Society: COS)と方面委員制度をめぐる一		
	授業計画第2回	福祉ミックス(自助・共助・公助)、福祉多元主義と地域福祉 一人口減少・少子高齢社会の進展を背景として一		
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。			
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。			
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組むようにして下さい。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類	基礎科目			
必選区分	必修科目			
科目名称	コミュニティソーシャルワーク I・II			
担当者	村山 くみ:4コマ(6時間)			

テーマ	コミュニティソーシャルワーク		
講義内容	この講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク(=コミュニティ・ソーシャルワーク)の必要性を学ぶとともに、その基礎理論であるジェネラリスト・ソーシャルワークについて学習します。また、地域を基盤としたソーシャルワークを推進するためのプロセスとその方法(ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク等)について学習を進めていきます。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を説明することができる 2. 地域を基盤としたソーシャルワークを推進するための方法を説明することができる 		
授業計画	授業計画 第1回	地域を基盤としたソーシャルワークの必要性を理解する 地域を基盤としたソーシャルワーク(=コミュニティ・ソーシャルワーク)の必要性について学びます	
	授業計画 第2回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク ソーシャルワークの基礎理論であるジェネラリスト・ソーシャルワークについて学びます	
	授業計画 第3回	コミュニティソーシャルワークを推進するための方法① コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について学びます	
	授業計画 第4回	コミュニティソーシャルワークを推進するための方法② コミュニティソーシャルワークを推進するための方法について学びます	
学修に必要な準備	特に必要な準備はありません。		
テキスト	テキスト:テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。 参考文献:授業の際に適宜紹介します。		
履修上の注意	授業終了後は、授業で使用したプリント等を読み返し、理解を深めるようにしてください。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考	授業はプレゼンテーションとハンドアウトを使用して行います。		

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類	基礎科目			
必選区分	必修科目			
科目名称	ケースワーク			
担当者	竹之内 章代:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援 ・相談援助、面接技術 			
講義内容	<p>地域における支援は、地域という大きな括りだけでは支援は完結しません。その地域に暮らす住民一人ひとりのニーズの上に、その地域への支援が考えられているのです。そこで、この講義では、地域における住民への相談援助や個別支援の意義と役割、その支援技術について学びます。社会福祉の援助技術であるケースワーク(個別援助技術)の史的展開、その定義にふれ、その上で具体的な援助方法について学び、面接のロールプレイを通じて技術の習得を進めていきます。</p>			
達成目標	<p>個別援助技術であるケースワークの意義と役割が理解でき、説明できる。また、ロールプレイなど体験型の学習を通して、その技術を実際の活動の中で実践できることをめざす。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	<ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉の援助技術における「個別援助技術」とは何か ②援助技術の史的展開 ③個別援助技術とは(意義と役割) ④面接の技法 		
	授業計画 第2回	<ul style="list-style-type: none"> ①個別支援技術の実際 ②事例を通して考える～ロールプレイを通じて学ぶ 		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	授業で必要な資料を配付します。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類	基礎科目			
必選区分	必修科目			
科目名称	社会保障制度の新たな動向Ⅰ・Ⅱ			
担当者	阿部 裕二::2コマ(3時間)【第1回・2回】 宮城県:1コマ(1.5時間)【第3回】 仙台市:1コマ(1.5時間)【第4回】			

テーマ	<p>【第1回・2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の社会保障改革の柱となる3つの概念 CSWの武器の一つとしての「重層的支援体制整備事業」について <p>【第3回・4回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮城県と仙台市の社会福祉の現状と課題 			
講義内容	<p>【第1回・2回】日本の社会保障は、現役世代が急減するとともに高齢者人口がピークを迎える「2040年」を見据えてパラダイムシフトが進行しています。そこで、現在の社会保障改革の柱となる3つの概念を説明します。そして、CSWの重要なツールとなり得る「重層的支援体制整備事業」について、具体的な事例を含めて受講生の皆さんと考えていきたいと思えます。</p> <p>【第3回】国の社会福祉制度及び宮城県の社会福祉行政について説明します。</p> <p>【第4回】仙台市の社会福祉制度や重点施策について説明します。</p>			
達成目標	<p>【第1回】現在の社会保障改革の特徴を理解することができる。</p> <p>【第2回】事例を踏まえつつ、重層的支援体制整備事業を把握することができる。</p> <p>【第3回】これまでの国や県が実施してきた社会福祉行政を概観することで、地域における社会福祉行政の課題や今後の方向性を考えることができる。</p> <p>【第4回】仙台市の社会福祉制度について理解を深める。自分が住んでいる地域や勤務先の市町村の社会保障制度について、主体的に考えることができる。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	現在の社会保障改革の柱となる3つの概念(地域共生社会、全世代型社会保障、孤独・孤立対策)について、それぞれの内容と課題について考察します。		
	授業計画 第2回	重層的支援体制整備事業を、具体的な事例を踏まえつつ考察します。		
	授業計画 第3回	これまで国で実施してきた社会福祉制度を概観し、宮城県地域福祉推進計画を中心に地域福祉を取り巻く状況や支援施策の展開について考察します。		
	授業計画 第4回	仙台市の社会福祉制度についての学びを通して、自分が住んでいる地域や勤務先の市町村の社会保障制度について考察します。		
学修に必要な準備	<p>【第1回・2回】準備は特に必要ありませんが、自分なりに社会保障の現状や重層的支援体制整備事業の目的等を調べておいていただければ結構です。</p> <p>【第3回】特にありません。</p> <p>【第4回】特にありません。</p>			
テキスト	<p>【第1回・2回】特にありません。授業の際に資料を配付します。また、パワーポイントのスライドを活用します。</p> <p>【第3回】特にありません。事前にパワーポイントを送付しますので、資料として活用願います。</p> <p>【第4回】特にありません。当日に資料を配布します。</p>			
履修上の注意	<p>【第1回・2回】本講座は、地域における支援者(コミュニティソーシャルワーカー)としてのスキルアップ講座ですが、我がこととして学ぶことが理解を深める一助になります。</p> <p>【第3回】地元市町村において「市町村地域福祉計画」を策定している場合には、事前に目を通しておくこと県の支援計画との関連性が理解できます。</p> <p>【第4回】自身の地元や勤務先の市町村の福祉施策について調べておくことで、よりイメージを持って受講していただけます。</p>			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○(第3回、4回のみ) 実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類	基礎科目			
必選区分	必修科目			
科目名称	コミュニケーション基礎論とICT活用			
担当者	坂本 泰伸:2コマ(3時間)			

テーマ	コミュニケーションの構造と役割についての理解と活用		
講義内容	<p>コミュニティソーシャルワークは、個人の努力や能力だけで進めることはできません。地域において生活上の課題を抱える家族や個人に対する「個別的支援」は、チームによるアプローチによって統合的に展開や実践する必要があります。特に、人々が暮らす生活環境の整備や住民の組織化等といった「地域支援」の効果的な実現に向けて、コミュニティソーシャルワーカーにはチーム内外の活動における高いコミュニケーション能力が求められています。</p> <p>この講義では、コミュニケーションの構造と役割について基本的な部分から理解を進め、コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法を理解していきます。</p>		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの構造と役割について基本的な事柄を理解する ・コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法を理解する ・コミュニケーションとコミュニティソーシャルワークの関係性を理解する 		
授業計画	授業計画第1回	コミュニケーションの構造と役割	
	授業計画第2回	コミュニケーションを円滑に進める技法やICTの活用方法	
学修に必要な準備	特に必要な準備はありません。		
テキスト	この授業では特定のテキストは使用しません。授業の際に配布する、パワーポイントのスライド資料を利用して授業を進めます。グループワークないしは個人ワークを含めますので、筆記用具を手元に準備する様にしてください。		
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について理解が確かなものとなるように、授業中の積極的な質問の実施や、授業終了後の振り返りを意識するようにしてください。		
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考	授業はプレゼンテーションとハンドアウトを中心にして進めていきます。		

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	データによる社会調査・分析(社会疫学) I・II			
担当者	鈴木 寿則:4コマ(6時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ利活用の考え方 ・保健医療分野における分析手法について 			
講義内容	<p>地域における保健、医療、福祉の課題を明確にし、その対策を講じるために必要な情報分析(地域診断)の基礎を学びます。現在、わが国は世界一の長寿社会を達成し、平均寿命および健康寿命が世界一となっています。同時に、高齢化率も28.4%と世界一となっており、2025年までには介護需要が40%以上増加することが推計されています。このような社会状況下で、国は疾病予防、介護予防を重視した施策を展開中であり、その一環として、地域におけるデータ分析は必須のものとなっています。講義では、分析の手法のみならず、現在、求められている分析の背景、必要性を踏まえ、今後の地域における保健、医療、福祉のあり方、連携について考察を行います。また、地域社会の現状を把握しようとするさいに用いられる「アンケート調査」の方法の基礎について学びます。アンケート調査では、調査対象の設定、調査票作成、集計と分析などを実技や演習を取り入れ、実践的に学習します。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在のわが国の社会保障(保健、医療を含む)の状況について理解できる。 2. 保健、医療、福祉の連携のために必要なデータ分析の意義について理解できる。 3. データ分析の手法(統計処理)の基礎について理解できる。 4. 健康増進、地域課題の抽出と課題解決に必要な疫学の概要について理解できる。 			
授業計画	授業計画第1回	社会保障を取り巻く状況(国民医療費の問題など)について データ分析の必要性について		
	授業計画第2回	地域(集団)を対象とする統計処理の考え方について 現在の日本再興戦略における「データヘルス計画」について		
	授業計画第3回	疫学(地域相関分析、症例対照研究、前向きコホート研究)の概要について 疫学研究結果の評価(スクリーニングなど)について		
	授業計画第4回	地域の情報分析の結果の考察について PDCAサイクルの実践について		
学修に必要な準備	特に必要ありません。			
テキスト	日本疫学会 監修『はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第4版』			
履修上の注意	本講義は、分析の手法等について解説していきますが、地域分析(地域診断)は、それぞれ目的、背景(地域特性)、考察が様々であり、異なってきます。履修上、受講者の皆様に求めることとして、講義で学修した内容を、常に自分たちの現場等でどのように活用できるのかを考え、主体的に取り組んで頂きたいと思っております。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○(第3回、4回のみ) 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	参考文献: 保健、医療、福祉にかかる分析、統計処理をはじめて学習する方は、中村好一 著『疫学とは何か データと理論思考で探る病気の原因と予防』(技術評論社, 2021)が、入門書としてお勧めです。			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅰ・Ⅱ			
担当者	黒坂 愛衣:4コマ(6時間)			

テーマ	社会調査としてのライフストーリー聞き取り		
講義内容	社会調査としての「ライフストーリー聞き取り」の方法の基礎について学びます。講師が行ってきた調査の経験から、聞き取りやフィールドワークの意義とおもしろさを知るとともに、質問のしかた／語りの意味の分析／調査倫理などについて学習します。グループワークで「ライフストーリー聞き取り」を読み解く時間も設けます。		
達成目標	(1)社会的背景の異なる他者の人生の語りを聞くことのおもしろさに気づくことができる。 (2) 社会調査としての「聞き取り」の方法の基礎について理解する。		
授業計画	授業計画 第1回	「ライフストーリー聞き取り」の魅力	
	授業計画 第2回	「ライフストーリー聞き取り」を読んでみよう(グループワーク)	
	授業計画 第3回	「ライフストーリー聞き取り」の読み解き、聞き取り調査の方法について	
	授業計画 第4回	調査倫理について	
学修に必要な準備	講義のなかで適宜指示します。		
テキスト	講義のなかで適宜指示します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○(第1回、2回のみ) 双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	地域の施策と資源理解Ⅰ・Ⅱ			
担当者	武藤 哲哉:2コマ(3時間)【第1回・2回】 早川 敏:2コマ(3時間)【第3回・4回】			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的支援体制の理解と地域生活課題の解決方策 ・地域福祉資源の抱える課題と解決方策 			
講義内容	<p>【第1回・2回】 「地域共生社会の実現(政策・理念)」に向けた包括的支援体制の考え方について、地域医療介護確保法(地域包括ケアシステム)や生活困窮者自立支援制度、社会福祉法の改正の観点から概観します。また、地域共生社会の実現に深く関わりのある民生委員・児童委員の活動や生活困窮者自立支援制度(自立相談支援機関の活動)、行政の重層的支援体制整備事業と社会福祉協議会の活動の連携の意義について考察していきます。</p> <p>【第3回・4回】 仙台市社会福祉協議会が進めてきた地域福祉活動は、平成8年度から、ほぼ中学校区単位で組織されている地区社会福祉協議会が行う小地域福祉ネットワーク活動を基盤としている。現在、市内104全ての地区社会福祉協議会で行われており、住民主体による自主的な活動として根付いている。その活動内容は、地域性や住民参加の度合いにもよるが、見守り、サロン、日常生活支援などを展開してきており、その具体的な取り組みについて考察していきます。また、住民の心配ごと、困りごと、願い等を起点とした地域資源の把握と活用についても学びます。</p>			
達成目標	<p>【第1回・2回】包括的支援体制整備の必要性とこれを支える制度等について理解すること。また、住民や関係機関等の専門職の連携の在り方と実践方法について、自分なりの解を見出すこと。</p> <p>【第3回】小地域福祉ネットワーク活動の現在の活動を明らかにし、活動から見えてくる課題を考察する。</p> <p>【第4回】課題解決に必要な地域資源とは何かを理解し、その把握手法や活用方法、資源開発の視点等を考え理解する。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	包括的な支援体制の整備に係る関係制度等について		
	授業計画 第2回	地域生活課題の解決のための連携について		
	授業計画 第3回	小地域福祉ネットワーク活動の実際		
	授業計画 第4回	地域資源とは何か、その活用方法と開発の視点等について		
学修に必要な準備	<p>【第1回・2回】受講者がお住まいの地域の地域福祉計画(社会福祉法第107条に規定する市町村地域福祉計画)に目を通しておくことを期待します。</p> <p>【第3回・4回】仙台市社会福祉協議会のHPから、地域福祉活動計画を検索し、その中に記載している小地域ネットワーク活動について確認しておいてください。</p>			
テキスト	<p>【第1回・2回】特に用いません。授業の際にパワーポイント資料を配布します。</p> <p>【第3回・4回】当日持参します。</p>			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	○企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	地域社会とCSR(企業の社会的責任)			
担当者	矢口 義教:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会的責任の正確な理解と現代的潮流 ・社会貢献を視点とする企業と地域社会との関係性 			
講義内容	<p>本講義は、地域社会の持続可能な発展における企業の役割を考察することにある。そのために、まずCSR(企業の社会的責任)が、どのような背景で出現しているのかを見た後に、CSRの概念を検討する。これによって、CSRの特徴やその意味を理解する。また、近年では企業も含めた持続可能性について、SDGs(持続可能な開発目標)で語られることも多い。本講義では、SDGsについて解説しつつ、CSRとの関係性についても触れていく。このような前提を踏まえて、企業と社会との関係に考察を進める。そこでは、日本企業の社会貢献の全体像を示し、近年のトレンド、そして大企業と中小企業との違いにも言及していく。そして、最後に東日本大震災時および復興・復興期における企業の役割をCSRの観点から考察し、企業の地域社会におけるCSRの意味をより掘り下げていく。</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動やSDGsも含めてCSRの正しい理解ができるようになる ・企業と地域社会(NPOや福祉団体)の関係を理解できるようになる ・企業との連携について、新たな発見やアイデアを考える基礎を得る 			
授業計画	授業計画第1回	CSRとは(CSRの背景、基本的概念と構成要素、現代的潮流)		
	授業計画第2回	企業と地域社会(企業の社会貢献活動、東日本大震災やコロナ禍における企業の社会性)		
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。			
テキスト	テキストは用いません。授業の際に配布するパワーポイントのハンドアウトをテキストとして使用します。			
履修上の注意	授業の内容を深める努力をしてください。実際には、新聞記事やニュースなどで地域企業の動向を見て、当該企業の性質・特徴と取り組める役割などをつねに考えられるようになってください。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	組織運営			
担当者	櫻井 雅充:2コマ(3時間)			

テーマ	ワーク・ライフ・バランス			
講義内容	<p>ワーク・ライフ・バランスは、仕事と生活の調和と訳される用語です。近年、人手不足に苦しむ多くの組織にとって、従業員のワーク・ライフ・バランスをいかに実現するのかが大きな課題となっています。この授業では、ワーク・ライフ・バランスの考え方と実際の取り組みについて学びながら、皆さんの職場で実際に生じているワーク・ライフ・バランスに関する課題の対応策を考えていきます。</p> <p>授業では、スライドを用いた講義を行うほか、履修者同士でのグループ・ディスカッションも実施します。</p>			
達成目標	<p>ワーク・ライフ・バランスの考え方と最新の取り組みについて理解することができる。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに関する課題について、その対応策を考えることができる。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	ワーク・ライフ・バランスの基本的な考え方と、ワーク・ライフ・バランス支援制度について学びます。第1回は講義形式で実施します。		
	授業計画 第2回	ワーク・ライフ・バランスに関する実際の企業・自治体等の取り組みについて学びます。第2回の前半は講義形式で実施しますが、後半は全員でグループ・ディスカッションを行います。		
学修に必要な準備	授業に参加する際には、皆さんの職場で実際に生じているワーク・ライフ・バランスに関する課題について考えてきてください。			
テキスト	テキストは使用しません。 授業の際に講義資料を配布します。			
履修上の注意	授業終了後には、授業の復習をして内容の理解を深めてください。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	地域福祉活動計画Ⅰ・Ⅱ			
担当者	早川 敏:1コマ(1.5時間)【第1回】 佐々 利春:1コマ(1.5時間)【第2回】 増子 正:2コマ(3時間)【第3回・4回】			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・実例に基づく地域福祉活動(支援)計画の理解 ・地域福祉活動計画策定の実際とその課題 ・地域福祉活動計画の評価 			
講義内容	<p>社会福祉協議会が策定をする地域福祉活動(支援)計画は、改正社会福祉法の成立(2017年)により地方自治体において福祉分野の「上位計画」として位置づけ策定を努力義務化された地域福祉計画と両輪をなすものとして位置付けられています。この間の経緯や背景を学ぶとともに、事例として仙台市社会福祉協議会と富谷市社会福祉協議会が策定をした活動(支援)計画の場合について、より望ましい計画策定について検討します。また、策定後に行政や住民と協働体制を敷いた富谷市社協の策定過程や効果について説明します。</p> <p>【第1回・2回】実際の市町村における活動計画等の策定プロセスを学び、どのように課題解決に反映させていくのかなどについて考え、自らが居住する(または活動で関わっている)市町村においては策定のプロセスに市民がどのように参画するのが望ましいのか考えます。</p> <p>【第3回・4回】評価は計画を遂行するために欠くことのできない重要なプロセスです。計画の修正・見直しは評価に基づいて行われなければならないため、評価の概念・手法・活用方法と事例を紹介し、具体的な地域福祉活動計画評価への活用の仕方を考えていきます。</p>			
達成目標	<p>地域福祉計画の必要性和宮城県の地域福祉支援計画及び県社協の35市町村社協を支援する推進計画の内容について理解する。一つの小さい自治体社協の取組、工夫、特徴を学ぶとともに、その策定による効果を理解する。評価の手法が、地域福祉活動計画の修正・見直しに活用できるようになる。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	市町村における行政計画と活動計画の実際 仙台市における活動計画策定のプロセス 仙台市第5次地域福祉活動計画について		
	授業計画 第2回	市町村における行政計画と活動計画の実際(富谷市社会福祉協議会を例に)		
	授業計画 第3回	評価の意義 地域福祉活動計画と評価		
	授業計画 第4回	地域福祉活動計画の評価方法の検討		
学修に必要な準備	<p>【第1回】 仙台市社会福祉協議会HPにある地域福祉活動計画に目を通しておいてください。</p> <p>【第2回】 特にありません。</p> <p>【第3回・4回】 行政機関が行なっている政策評価についてHPで目を通しておいてください。</p>			
テキスト	<p>【第1回・2回】 講師が当日持参します。</p> <p>【第3回・4回】 講義の当日に配布します。</p>			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	○(第1回、2回のみ) 企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○(第1回、2回のみ) 実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	地域アセスメント			
担当者	森 明人:2コマ(3時間)			

テーマ	地域共生社会政策に基づく市町村の地域福祉計画や社会福祉協議会の地域福祉活動計画を策定する際に基本とする日常生活圏域をベースにした地域アセスメントについて学ぶ。			
講義内容	地域アセスメントについて、対象、主体、方法について基本理解を図る。 地域生活課題を分析する基本視点と枠組みについて学ぶ。			
達成目標	地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定するための課題分析ができるようになる。			
授業計画	授業計画 第1回	地域アセスメントについて、対象、主体、方法、課題分析について基本理解を図る。		
	授業計画 第2回	ワークショップ形式による地域アセスメントを実践してみる。		
学修に必要な準備	地域福祉計画・地域福祉活動計画を一読してくること			
テキスト	資料を配布します。			
履修上の注意	特にありません。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類		必須理論		
必選区分	必修科目			
科目名称	ファシリテーションの理論			
担当者	渡邊 一馬: 1コマ(1.5時間)			

テーマ	ファシリテーションの基礎		
講義内容	ファシリテーションの基本理論とワークショップ設計の基礎を学びます。多様な主体者同士の合意形成プロセスの構造や参加者の心理的要因、多様なステークホルダー間調整の理論的枠組みを理解し、効果的な場づくりの原則を習得します。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・協働事業におけるファシリテーションの機能と役割を体系的に理解する ・ワークショップ設計の理論的フレームワークを習得する ・多様な主体間の合意形成メカニズムを説明できる 		
授業計画	授業計画 第1回	ファシリテーション概論 ・参加者の主体性を高める心理的要素 ・ワークショップ設計の原則	
学修に必要な準備	ご自身が考える「ファシリテーション」「ワークショップ」についてまとめてきて下さい。		
テキスト	テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。		
履修上の注意			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業
備考			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	地域福祉とファンドレイジング I・II〔遠隔授業〕			
担当者	久津摩 和弘: 4コマ(6時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動と財源の関係性理解 ・ファンドレイジング基礎知識 ・地域福祉におけるファンドレイジングの広報 ・福祉活動で遵守すべき寄付の倫理 			
講義内容	<p>これまで日本の地域福祉においては、行政からの公的財源や助成団体からの助成金などを主な財源としたサービス提供、団体の経営が行われてきた。しかし、昨今、地方自治体の財政状況の厳しさ等もあり、公的財源による新たなニーズ対応が困難となるなど、十分な地域福祉活動が行えないことが増えている現状がある。また、日本の地域福祉活動の財源の一翼を担ってきた共同募金においても、寄付金が減少し、助成額も縮小せざるを得ない地域も多くある状況である。このような中、地域福祉活動を行う団体においては、これらの財源がなくなったとしても、継続的かつ安定的に地域のニーズへの支援活動を行う使命があるものの、財源対策を行えている団体はごくわずかであるのが現状である。</p> <p>一方、地域福祉においては、例えば、貧困世帯の子どもへの食糧や生活必需品、学用品の支援等の個人的なニーズに関する支援活動、数日から数ヶ月以内の事業化が求められる即応が必要なニーズへの対応など、公的財源や助成金等では対応が困難なニーズにも支援を行っていく必要があるが、このようなニーズには寄付金など、自由度の高い民間財源を使わなければ対応していくことができない状況もある。しかし、この点に関しても、十分な財源を確保できている団体はごく一部であるのが現状である。</p> <p>そこで、地域福祉活動を行うCSWがお金がないで終わらせない、継続的で安定的な支援活動を実現することができるようにするため、福祉活動に関して、財源との関係性、ファンドレイジング基礎知識、広報、寄付倫理など、ファンドレイジングに関する体系的な基礎知識を学びます。</p>			
達成目標	公的財源の限界がある中において、コミュニティソーシャルワーカーが「お金がない」で諦めない福祉を実践し、多様な財源を確保し、様々なニーズに対応できるようにするための基盤となる理念やファンドレイジングの専門的な知識、倫理等を理解する。			
授業計画	授業計画第1回	地域福祉活動と財源の関係性		
	授業計画第2回	ファンドレイジング基礎知識		
	授業計画第3回	地域福祉活動におけるファンドレイジングの広報		
	授業計画第4回	福祉サービス提供組織における寄附に関する倫理		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	地域福祉とファンドレイジング(2018)中央法規出版 パワーポイントの配布資料			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	協働の手法 I・II			
担当者	遠藤 智栄:4コマ(6時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の歴史 ・協働の事例 ・協働における課題と可能性、今後について 			
講義内容	<p>多様な主体が互いに連携し、単独ではなし得なかった課題解決を実現する「協働」の手法は、日常のまちづくり活動のみならず、大規模災害時の復旧、復興にも活用されています。本講義では、協働についての歴史や事例、そして現在の課題と今後の可能性について演習形式を取り入れながら学びます。</p>			
達成目標	<p>地域や福祉、公共を考える上で不可欠な「協働」の概念を理解する。そして、協働テーマの発見から協働取り組みの構築、協働での成果の確認、そして評価などの全体プロセスを理解する。</p>			
授業計画	授業計画第1回	協働の歴史と意味		
	授業計画第2回	協働事例研究とその分析①		
	授業計画第3回	協働事例研究とその分析②		
	授業計画第4回	協働コーディネート演習		
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません			
テキスト	使用する資料は授業の際に配布します。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	授業はパワポを使用して行います。			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	ファシリテーションの実践			
担当者	渡邊 一馬:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションの実践 ・ワークショップの設計と運営 			
講義内容	<p>協働は、参加する自治体職員、公共団体職員、NPO職員、市民等の合意形成の質を如何に高くするか、メンバーの納得度をどのようにして高めるかなど、ファシリテーションの機能が成功の鍵であり、この機能は日常でのコミュニケーション全般において必要です。そして、協働の場で用いられるワークショップは、主体的な学びや創造、問題解決やトレーニングの手法です。この講義では、ファシリテーションの基本的技術とワークショップ運営をより充実させるための手法を、参加者と共にワークにより学びます。</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な地域課題を題材にワークショップ設計ができる ・多様な参加者層を想定したファシリテーション技術を実践的に習得する ・運営上の課題を特定し改善策を提案できる 			
授業計画	授業計画 第1回	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ設計演習 ・課題の構造分析(ステークホルダーマッピング) ・参加者属性に応じたワークショップ設計 		
	授業計画 第2回	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ運営演習 ・模擬ワークショップ運営 ・改善計画の策定 		
学修に必要な準備	自分の身の周りで取り組んでいる、もしくは取り組みたい「地域課題」と、その課題に関係している「登場人物10人以上」を出来るだけ具体的に書き出してきて下さい。			
テキスト	テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	健康格差論			
担当者	鈴木 寿則:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・社会環境における健康づくりの理解 ・健康に影響を及ぼす社会経済的要因についての考察 			
講義内容	<p>これまで保健医療分野で取り扱ってきた「健康」について、社会科学の側面から考察します。社会科学における「健康」は、医療保険制度や介護保険制度などの制度論について考察されるものでした。また、「健康」は、その維持や増進のため、保健医療、とりわけ臨床医学が主となり取り扱われてきましたが、この十数年来、予防医学の考えが重視されるようになり、社会医学としての公衆衛生学が、分野を問わず幅広く議論され、実践されてきております。</p> <p>そこで、本来は誰もが平等に享受すべき「健康」について、性別、家族、学歴、所得、居住地などの社会環境要因が影響を与えていることが明らかにされつつあります。これらの格差がどのように健康と関連し、健康格差を生じさせるのか、その基礎的な考えを理解し、グループワークなどを通じて、自分たちの社会生活からどのような因果関係で健康格差が生じうるのかを検討し、その課題解決に向けた実践的学習を展開していきます。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会環境と健康の関係について理解できる。 2. 健康に関連する社会環境の要因について考察することができる。 3. 健康格差について理解し、その解決方法について考察することができる。 			
授業計画	授業計画 第1回	健康格差とはなにか これまでの健康格差研究について		
	授業計画 第2回	社会科学モデルからの健康の因果関係について 社会環境要因について		
学修に必要な準備	CSWスキルアッププログラムの授業である「社会疫学Ⅰ」および「社会疫学Ⅱ」の学修を踏まえた上で授業を行います。授業前には当該科目を見直しておくことが望ましい。			
テキスト	授業で使用するプリント等は、授業中に配布致します。			
履修上の注意	本講義は、健康格差について解説していきますが、社会環境と健康の関連性は、それぞれの背景、考察が様々であり、異なってきます。履修上、受講者の皆様に求めることとして、講義で学修した内容を、常に自分たちの現場等でどのように活用できるのかを考え、主体的に取り組んで頂きたいと思っております。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	特になし。			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	コミュニティビジネス			
担当者	吉澤 武志:2コマ(3時間)			

テーマ	コミュニティビジネスの基本的な理解と演習			
講義内容	<p>地域が抱える様々な課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとするコミュニティビジネス。本講義では、丸森町筆甫地区で取り組まれているコミュニティビジネスを通して、コミュニティビジネスの考え方を学びます。また実際にそれぞれが置かれているコミュニティにおける事業を考えてみることで地域課題をコミュニティビジネスの力で解決していく方法を参加者同士のワークにより学びます。</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティビジネスの基本的な考え方を理解をする。 ・地域課題をビジネス的な手法によって解決する視点を養う。 			
授業計画	授業計画 第1回	コミュニティビジネスの事例とその考え方について ・丸森町筆甫地区の実践事例から学ぶ		
	授業計画 第2回	コミュニティビジネス演習 ・コミュニティにおける事業の構想を検討する		
学修に必要な準備	受講者の方のかかわるコミュニティの地域課題とその解決方法をイメージして演習に臨んでください。			
テキスト	テキストは特に使用しません。使用する資料は授業の際に配布します。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	臨床宗教学(聴くチカラ-カフェデモンクの事例から)			
担当者	金田 諦應:2コマ(3時間)			

テーマ	傾聴のチカラ コミュニティのチカラ グリーフケアとアウトリーチ			
講義内容	対人援助職に必要な「死生観」を東日本大震災で活動した「傾聴移動喫茶カフェデモンク」での事例を通して共に考えていきたい。また、他の人生に介入していく場合の基本スキルである「傾聴」について学び、寄り添う事とは何かを学んでいく。			
達成目標	対人援助職として自身の「死生観」を自覚する事。傾聴とは相手との対話だけでなく、自分と厳しく向き合う作業である事を理解する。震災と震災後の経験をコミュニティ形成に活かす事。			
授業計画	授業計画第1回	東日本大震災と傾聴移動喫茶「カフェデモンク」		
	授業計画第2回	カフェデモンクの活動から学んだ「傾聴のチカラ」		
学修に必要な準備	特になし			
テキスト	パワーポイントから起こした資料と活動に関連した資料を配布します。			
履修上の注意	震災を過去の出来事にせず、常に「今」の事として捉え、日常に活かして下さい。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	対人コミュニケーションと心理的援助			
担当者	臼倉 瞳:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・対人コミュニケーションにかかわる知識・技術を学ぶ ・災害時における心理的援助に関する知識・技術を学ぶ 			
講義内容	<p>CSWとしての役割を果たすにあたり、コミュニケーションスキルは必要不可欠といえます。本授業では、心理学領域における理論・学術的知見を踏まえながらコミュニケーションや心理的援助に関わる知識・技術を学びます。また、平時だけでなく災害時における心理的援助のあり方や、支援者自身のセルフケアについても取りあげます。なお、講師は、臨床心理士・公認心理師の有資格者であり、被災者支援・支援者支援に関する調査研究や、メンタルヘルスに関する普及啓発活動に従事してきた経験を活かして講義・演習を行う予定です。</p>			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的援助に際して効果的なコミュニケーションのあり方を理解し、実践することができる ・災害時の被災者のメンタルヘルスへの影響や支援者として留意すべき事項を理解することができる 			
授業計画	授業計画第1回	心理的援助におけるコミュニケーション技法(講義・演習)		
	授業計画第2回	災害時における心理的援助のあり方(講義・演習)		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	講義当日に資料を配布します。			
履修上の注意	ペアワークや講師から受講者への発問時には積極的・協力的な参加を求めます。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	発達障がい者支援			
担当者	皆川 美雪:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の理解 ・社会的取り組みの現状と課題 ・地域社会と社会的包摂 			
講義内容	<p>発達障害者支援法により、それまで支援が届きにくかった発達障害に関して、早期発見し、自立及び社会参加のための生活全般にわたる支援の必要性が指摘され、個人としての尊厳にふさわしい社会生活を営むことができるよう切れ目のない支援が行われることが明文化されている。しかしながら、発達障害は、生来性あるいは生後間もなく生じる脳機能障害であるが、環境や個人によって困り感が異なり多様な様態を示す障害である。そのため障害自体が理解されにくく、支援に結びにくい側面がある。</p> <p>発達障害の理解をはじめとして、その社会的な取り組みや課題等の現状について学び、発達障がい者を地域社会が包摂していくために、いま求められていることについて受講生とともに演習形式で学びます。</p>			
達成目標	<p>発達障害についての理解を深め、関連諸法の動向の中で発達支援の諸課題を理解する。また、地域資源活用の観点から、俯瞰的視点でネットワーク図を描くことができるとともに、より良い支援が模索できる。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	発達障害の概念-大人の発達障害を中心に- 発達障害の二次障害への対応について		
	授業計画 第2回	事例を通して、地域資源を生かした支援を探る		
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。			
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。			
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組むようにして下さい。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	授業受講の際に、第1回～第2回の授業テーマごとにそれぞれの参考文献を紹介致します。			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分		選択科目		
科目名称	ソーシャルワーク・スーパービジョン			
担当者	塩村 公子:2コマ(3時間)			

テーマ	ソーシャルワーク・スーパービジョン			
講義内容	ソーシャルワークにおける人材育成・サービスの質向上・ソーシャルワーカーへのサポートを統合的に実践するスーパービジョンについて、その基本の理解を目指します。			
達成目標	スーパービジョンとは何かについて理解できる これまでの実践とスーパービジョンの考え方を結びつけて考えることができる 今後の実践にスーパービジョンの考え方を参考にすることができる			
授業計画	授業計画 第1回	基礎編:スーパービジョンの定義・機能・構成要素・スーパービジョンの種類		
	授業計画 第2回	実践編:ソーシャルワーク・スーパービジョンの視野・各機能の実際・スーパービジョンに必要な知識と技術		
学修に必要な準備	受講生各自がどのように自身の専門性を身につけてきたか思い出してきてください。			
テキスト	テキストはありません。当日はパワーポイントや配布資料で授業を進めます。 参考文献: 日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修(2023)『実践ソーシャルワーク・スーパービジョン』中央法規出版、日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修(2015)『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版など、授業内でその他についても紹介します。			
履修上の注意	受講生間の話し合いを含みます。お互いの協力が必要です。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			実践技法	
必選区分			選択科目	
科目名称	認知症の理解と地域支援			
担当者	石原 哲郎:2コマ(3時間)			

テーマ	超高齢化社会における持続可能な地域づくり			
講義内容	<p>昨今メディアでも話題となっている認知症。85歳以上の半数以上が認知症と呼ばれる状態で生活しています。あなたの身近な人にも認知症と診断されておられる方、認知機能低下のある方がいらっしゃるかもしれません。何があったら認知症になっても地域で生活し続けられるのでしょうか？コミュニティソーシャルワーカーの人には、ぜひ知っていただきたい内容が満載です。</p> <p>まず認知症専門医が認知症の基礎から訪問診療を通して見た実際の生活を紹介します。次にLiving Well With Dementia(認知症とともに生きる)をキーワードに、世界の認知症の当事者の生活について伝えます。</p> <p>講義はワークショップ形式です。最先端ののプレスト、リベレイティングストラクチャーを使った楽しいワークショップです。同じ境遇にありながらも、より良い生活を送っている片隅の成功者(Positive Deviance)の見つけ方についても学べます。</p>			
達成目標	<p>認知症という状態や認知機能低下をきたす疾患を理解できるようになる。</p> <p>パーソン・センタード・ケアについて理解できるようになる。</p> <p>認知症の診断後支援の重要性について理解できる。</p> <p>認知症の人も住みやすい地域を目指すことに自信が持てる。</p> <p>Positive Devianceの考え方を習得できる。</p> <p>楽しいワークショップ開催方法を理解できる。</p>			
授業計画	授業計画第1回	認知症、認知症の診断後支援についての講義とワークショップ		
	授業計画第2回	認知症の人が地域で生活し続けるためのPositive Deviance体験ワークショップ		
学修に必要な準備	特にありません。認知症の人とのかかわりについて少しメモしていただけましたら幸いです。			
テキスト	<p>参考文献:</p> <p>石原哲郎「図解でわかる認知症の知識と制度・サービス」(中央法規)</p>			
履修上の注意	特にありません。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			特論演習	
必選区分			選択科目	
科目名称	特論演習:高齢者支援と地域社会			
担当者	西澤 英之:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの活動の実際 ・地域包括ケアシステム構築に向けての課題 			
講義内容	<p>重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が一体的に提供される地域包括ケアシステムの深化・推進を目指した、地域における包括的な支援体制構築が求められています。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。その中核的な役割を担っている、日常生活圏域ごとに設置された「地域包括支援センター」に対する社会的な期待は高く、この講義では、地域包括支援センターの役割や課題について学びながら、高齢者の地域生活と地域包括ケアシステムの展開に向けて共に考えていきます。</p>			
達成目標	<p>コミュニティソーシャルワーカーとして、地域包括ケアシステムの展開における課題を的確に捉えることができる。また、ライフステージを踏まえた高齢者の豊かな地域生活を支援することについて様々な角度から考えることができる。さらに、住まい・医療・介護・予防・生活支援にかかわる関係機関のほか、障がい者・子ども等、高齢者以外の分野を超えた連携を視野に入れた包括的支援体制のあり方と共に、多様な地域住民同士による支え合いなど、支援が必要となった高齢者やその世帯を重層的に支える取り組みについても理解を深める事ができる。</p>			
授業計画	講義	地域包括支援センターの役割と地域社会における支え合い構築について		
	演習	<p>【演習1】高齢者を取り巻く生活課題の共有と支援のあり方を考える 【演習2】地域社会における支え合いの構築を考える</p>		
学修に必要な準備	認知症のある高齢者や地域から孤立している高齢者を支える地域の社会資源をできるだけ多く探して演習に臨んでください。			
テキスト	テキストは特に用いません。講義・演習で必要な資料はその都度配布します。			
履修上の注意	演習では受講者からの積極的な発言を求めます。日頃から自分が住む地域や勤務する地域の状況を多角的に捉えておいてください。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			特論演習	
必選区分			選択科目	
科目名称	特論演習:生活困窮者支援と地域社会			
担当者	後藤 美枝:2コマ(3時間)			

テーマ	生活困窮者自立支援制度の実際と課題			
講義内容	生活困窮者支援の実際から見てきたコミュニティソーシャルワーカーが何をしなければならないかを考えます。また実践からみえてきた課題を受講生とともに演習形式で検討します。			
達成目標	生活困窮者自立支援制度の現状とこれからの地域づくりについてを学ぶ。			
授業計画	授業計画第1回	生活困窮者自立支援制度について		
	授業計画第2回	困窮者支援について(PSCの取り組みの実践から)		
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。			
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	参考文献は特にありません。			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			特論演習	
必選区分			選択科目	
科目名称	特論演習:子育て支援と地域社会			
担当者	小岩 孝子:2コマ(3時間)			

テーマ	こどもたちが明日に希望を持てる地域社会の子育ち・子育て応援			
講義内容	<p>【課題の把握】ひとり親世帯や心身を患っている親世帯、障害児を持つ世帯、核家族、不登校のこどもを持つ家庭の増加に伴う社会的格差及び貧困から来る家庭機能の低下がこどもの心身の不健康と発達の遅れを引き起こしている現実やコロナ禍において生じた様々な制限により、こどもの心の状態に大きな影響を与えていること、子育てに困難をきたしている家庭も多くなっていること等の状況把握</p> <p>【課題への支援】切れ目のない子育て支援と細やかな家庭教育、及び学校教育・家庭教育・社会教育の3つをつないでいく「こども・子育て応援社会」の実現のためにすべきこと</p> <p>社会的な要請に取り組んできた事例とそこから見えてくる課題について演習形式で学びます。</p>			
達成目標	<p>新しい地域福祉の時代におけるこども・子育て支援のあり方や望ましいこどもの心の育ちと環境を実現するために、「こどもは社会のこども」として、「こどもまんなか」の理念を理解する。こどもたちの未来のために、地域一体となったこども・子育て応援社会を目指し、地域社会の中でコミュニティソーシャルワーカーが果たす機能と意義について理解ができる。</p>			
授業計画	授業計画第1回	切れ目のない子育て支援と細やかな家庭教育の必要性の実例と講義		
	授業計画第2回	地域社会とこども・子育て社会の課題・演習 「こどもの未来を応援する社会」対策の事例 グループワーク		
学修に必要な準備	準備は特に必要ありません。			
テキスト	特に用いません。授業の際にプリントして配布する講義資料とパワーポイントのスライドを利用して、授業を行います。			
履修上の注意	授業テーマごとのそれぞれの授業内容について、理解が確かなものとなるように、授業終了後の復習に取り組み、実践をしてください。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			特論演習	
必選区分		選択科目		
科目名称	特論演習:障がい者支援と地域社会			
担当者	伊藤 清市:2コマ(3時間)			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城・仙台の障害者文化の歴史を紐解き先人から学ぶ ・障害者差別解消法を元に、課題解決に向けCSWが果たす役割と目指すべき方向を学ぶ 			
講義内容	<p>私たちが学ぶ宮城・仙台は1970年代の「生活圏拡張運動」をはじめ、当事者・市民・行政が一体となって取り組んできた運動の歴史があります。そこでは「支える人」「支えられる人」という関係や、行政の縦割りを超えた先駆的な実践が生まれ、全国の福祉政策にも影響を与えました。</p> <p>本稿では、宮城・仙台の歴史を紐解きながら、先人たちの取り組みから何を学べるのかを考えます。さらに、障害者差別解消法をテーマにCSWに求められる障がい者支援のあり方について、障害当事者である講師自身の経験も交えながら考察します。</p>			
達成目標	障がい者支援を含む地域共生社会の実現に向けてCSWに求められる役割を理解するとともに、ミニッツペーパーや演習にて意見を表明できるようにする。			
授業計画	授業計画第1回	CSWに求められる障がい者支援① -宮城仙台的障害者文化の歴史概説～生活圏拡張運動を中心に～-		
	授業計画第2回	CSWに求められる障がい者支援② -障害者差別解消法概説、合理的配慮に関するグループワーク-		
学修に必要な準備	時事問題を扱いますのでニュース等に関心を寄せてください。			
テキスト	特に用いません。授業の際に配布する資料とパワーポイントのスライドを利用して授業を行います。			
履修上の注意	障がい者支援を中心に授業を行います。地域共生社会実現への観点から受講生全員の参加を希望します。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				特論演習
必選区分				選択科目
科目名称	特論演習:精神障がい者支援と地域社会			
担当者	菅原 里江:2コマ(3時間)			

テーマ	精神障害者を取り巻く地域社会の現状と課題／地域生活を支えるCSWに求められる役割と実践視点			
講義内容	<p>本演習では、精神障害を抱える人の地域生活を支えるうえで、CSWに求められる視点と役割について学ぶ。わが国において精神障害者が置かれてきた歴史的・制度的背景を整理したうえで、現在の地域生活支援の現状と課題を把握する。そのうえで、地域においてCSWが果たす役割を、本人・家族・地域・関係機関との関係性の中で捉え直す。</p> <p>後半では事例を用い、精神障害者の生活上の困難やニーズを多面的にアセスメントし、CSWとしてどのように関わり、どのような判断が求められるのかについて検討する。</p>			
達成目標	<p>①精神障害を抱える人の地域生活上の課題を、CSWの立場から整理し説明できる。</p> <p>②本人・家族・地域・制度の相互関係を踏まえ、精神障害者が置かれている状況をアセスメントできる。</p> <p>③事例を通して、CSWとしての役割や支援の方向性について、自身の考えを言語化し検討できる。</p>			
授業計画	授業計画 第1回	精神障害者の理解とCSWの視点— 病と障害の併存、生活のしづらさをどう捉えるか — 精神障害を抱える人の生活実態と地域生活上の困難／支援におけるCSWの基本的な立ち位置と役割		
	授業計画 第2回	精神障害者を対象とした地域支援の実際— 事例を用いたソーシャルワークの検討 — 事例を通じたニーズの捉え方とアセスメント／CSWとしての支援の方向性と判断のポイントの検討		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	当日に資料を配布します。			
履修上の注意	本演習では、事例を用いた意見交換を行います。守秘義務に配慮するとともに、参加者それぞれの立場や経験の違いを尊重し、正解を求めるのではなく、支援の考え方や判断のプロセスを共有しながら学び合う姿勢でご参加ください。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			特論演習	
必選区分			選択科目	
科目名称	特論演習:SDGsと地域社会			
担当者	紅邑 晶子:2コマ(3時間)			
テーマ	・SDGsと地域社会との関係、活動の実際			
講義内容	SDGs17の目標と地域社会の課題は、いずれも何らかの関係があります。この17の目標はCSWの活動にも密接な関係があるのですがまだこのことについて学ぶ機会は少ないのが現状です。本講座では、SDGsとはどういうものか、またCSWの活動にどのように活用できるかを学びます。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについての理解が深まる。 ・パートナーシップで地域課題を解決することを考え、CSWの活動につながるSDGs的アクションプランを創り出す。 			
授業計画	授業計画第1回	SDGsを理解する。SDGsとは、SDGsの実践例の紹介(自治体・企業・NPO/ NGO,)		
	授業計画第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを行って受講生自身とSDGs、所属している団体とSDGs、自分の担当している仕事とSDGsについて考える。 ・SDGsを活用している事例発表。地域課題について現状・課題解決した状況について、またCSWが担う役割について話し合うワークショップを行う。 ・ワークショップを踏まえて、SDGsを活用した解決策についてアクションプランを話し合い・発表する。 		
学修に必要な準備	外務省のSDGsとはのHPを事前に読んでくる。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html			
テキスト				
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				特論演習
必選区分		選択科目		
科目名称	特論演習: 災害とコミュニティソーシャルワーク			
担当者	渡邊 圭: 2コマ(3時間)			

テーマ	災害時にコミュニティソーシャルワークに求められる機能・役割を理解する			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害対応の枠組みとなる災害マネジメントモデルの理解 2. 防災～災害後対応～復旧・復興というプロセスとコミュニティソーシャルワークの関係を理解する 			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害マネジメントサイクルモデルに沿った形での社会福祉/ソーシャルワークからの災害対応のあり方を理解する 2. コミュニティソーシャルワークからの災害対応のあり方を考える 			
授業計画	授業計画第1回	日本における災害対応の史的展開と社会福祉、ソーシャルワークの関わりを理解する		
	授業計画第2回	災害マネジメントモデルに沿った支援の検討、およびキー概念となる”Vulnerability”と”Resilience”の理解		
学修に必要な準備	「災害救助法」「被災者生活再建支援法」について概要程度で構わないので事前に調べてきてください。			
テキスト	講義時に配布する資料を基に講義を行うため特に必要はありません。			
履修上の注意	特になし			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	参考文献 ・大島隆代『地域生活支援の理論と方法を探る：東日本大震災の支援フィールドにおける実践分析から』中央法規出版社			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類			特論演習	
必選区分			選択科目	
科目名称	特論演習: 三次救急病院からの地域移行支援			
担当者	澤井 彰: 2コマ(3時間)			

テーマ	三次救急病院における医療ソーシャルワーカーの役割・機能及びその効果/地域移行の現状と課題			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期病院における医療ソーシャルワーカーの業務内容・役割・機能について理解する 2. 医療機関におけるソーシャル・ハイ・リスクの概念について 3. 急性期病院から地域関係機関にどのように患者・家族を繋いでいるか、地域移行の現状と課題を理解する 			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期病院における医療ソーシャルワーカーの業務内容や役割等を理解する。 2. 医療ソーシャルワーカーが退院支援や地域移行支援を行う上での現状と課題について理解する。 			
授業計画	授業計画 第1回	医療ソーシャルワーカーの業務に関して -業務内容・院内の役割・地域における機能-		
	授業計画 第2回	三次救急病院からの地域移行支援の現状と課題について		
学修に必要な準備	特に必要な準備はありません。			
テキスト	講義時に配布する資料を基に講義を行うため、特に必要ありません。			
履修上の注意	特にありません。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考	参照文献: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 「保健医療と福祉」 中央法規(2021) 救急認定ソーシャルワーカー認定機構研修・テキスト作成委員会 「救急患者支援-地域につながるソーシャルワーク 救急認定ソーシャルワーカー標準テキスト」 へるす出版(2017)			

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				特論演習
必選区分				選択科目
科目名称	特論演習: 支援技術を活用した障がい者支援			
担当者	高橋 俊史: 2コマ(3時間)			

テーマ	重度障害用意思伝達装置をはじめとした支援技術について体験を通して知識を深め、活用について検討する			
講義内容	本講義では、障がい者支援のための支援技術についての知見を深めるために、重度障害用意思伝達装置などのハイテクな支援機器にかぎらず、コンピュータ操作をしやすくするためのトラックボールやコミュニケーションを支える透明文字盤などに触れて体感していただきます。また、あわせて自分がサポートしてきた事例をもとに、支援技術の効果と課題について学びます。			
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・重度障害用意思伝達装置などの支援技術についての理解を深める ・支援機器を導入する効果と導入するための課題についての理解を深める 			
授業計画	授業計画 第1回	支援技術への理解 実際に支援機器を操作し、どのような技術があるのかを知る		
	授業計画 第2回	支援技術導入に関するケーススタディ 機器を活用することで生じる効果や課題について検討する		
学修に必要な準備	特にありませんが、もし余裕があれば、動画投稿サイトなどにて「重度障害用意思伝達装置」と検索し、当事者の人たちがどのように活用しているのかなどを見ていただくと幸いです。			
テキスト	講義時に資料を配布しますので、特に必要ありません。			
履修上の注意	コンピュータをどんどん使用していくという講義ではありません。スマートフォンやコンピュータが苦手だから自分には合わないと思った方にも受講していただけるような組み立てとしておりますので、安心して受講してください。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分				選択科目
科目名称	事例研究: 仙台市におけるコミュニティソーシャルワーク			
担当者	小川 琢也: 2コマ(3時間)			

テーマ	仙台市における先取的な事例紹介と演習形式での検討			
講義内容	仙台市社会福祉協議会におけるコミュニティソーシャルワーカー(CSW)の歩みや主な活動内容について、実際の取り組み(地域づくり事例や複雑化・複合化した個別課題事例等)による演習形式を交えながら、活動上の課題や成果、過程等を示し、これからのCSWの活動のあり方を一緒に考える内容とする。			
達成目標	コミュニティソーシャルワーカーが持つべき基本的な視点や役割、姿勢等について、受講者が実践的且つ主体的にとらえることができるようにする。			
授業計画	授業計画 第1回	仙台市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーの現状と活動事例		
	授業計画 第2回	コミュニティソーシャルワーカーの役割について 一個別の困りごとから地域福祉活動の展開を考える(演習)ー		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	講師が作成し、事前送付又当日持参します。			
履修上の注意	なし			
授業運営に関する方針	○企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分				選択科目
科目名称	事例研究:南三陸町におけるコミュニティソーシャルワーク			
担当者	高橋 吏佳:2コマ(3時間)			

テーマ	南三陸町における住民主体の本質に触れる～事例紹介と演習形式での検討～			
講義内容	CSW(コミュニティソーシャルワーク)の手法を活用した住民主体の被災者支援活動から現在に至るまで、こだわりを持ち実践してきた南三陸町を事例として取り上げます。東日本大震災以降の復興から平時の地域福祉・まちづくりの視点と住民が持つレジリエンス及びその中にある理論について演習形式で検討します。			
達成目標	被災者支援から地域福祉への移行に関わる仕掛けと社協の役割が理解できる。また、住民主体の本質とはどのようなことかを理解出来るようになる。			
授業計画	授業計画第1回	南三陸町における被災者支援から地域づくりへの実際について。		
	授業計画第2回	アクティブ・ラーニング(active learning)手法を用いて、被災者支援から地域づくりへの実際を科学する。		
学修に必要な準備	特に準備は必要ありません。			
テキスト	特に用いません。授業に際して配布する講義資料を用いて講義します。			
履修上の注意	講義に際しては、積極的な参加を期待(前提と)しています。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分				選択科目
科目名称	事例研究: 柴田町におけるコミュニティソーシャルワーク			
担当者	相原 美由紀: 2コマ(3時間)			

テーマ	地域包括支援センターの事業を通して包括の役割を学ぶと共に介護予防と地域との繋がりについて考える			
講義内容	地域包括支援センターの地域に向けた介護予防事業や、様々な相談事例を通して、地域包括支援センターの役割を知って頂くと共に、高齢者への関わり方(個別支援)と家族や地域住民へのアプローチ・事業所や医療機関、行政との連携(地域包括ケア)について受講生の皆さんと共に考えたいと思います。			
達成目標	地域包括支援センターの役割について理解を深める。 介護予防の必要性と地域との関わりについて理解を深める。			
授業計画	授業計画 第1回	お元気な高齢者が増えていくために地域包括支援センターが取り組んでいる介護予防事業と高齢者支援のポイントについて、主にパワーポイントを使用し説明します。		
	授業計画 第2回	地域包括支援センターに寄せられる相談事例を基に、意見交換をしながら進めていきます。		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	必要に応じ当日資料を配布します。 授業の際はパワーポイントを使用します。			
履修上の注意	参加型の授業にしたいので、活発なご意見をよろしくお願いします。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分		選択科目		
科目名称	事例研究: 地域活動とコミュニティソーシャルワーク			
担当者	増田 恵美子: 2コマ(3時間)			

テーマ	進化・成長する「地域活動」を楽しむ			
講義内容	<p>「Naritaマルシェ」(富谷市成田地区)は、地域住民が自主的・主体的に実践している活動です。地元を軸足を置いて活動を続ける原動力となる「想い」や「願い」の大切さをお伝えします。また、私たち自身「こんなことができる日がくるなんて・・・」と日々感動しながら楽しんでいますが、その「進化」「成長」をできるだけリアルタイムでお伝えいたします。</p>			
達成目標	<p>「地域づくり」への意欲を高め、「住民が持っている地域づくりの可能性」や「活動を支える動機の大切さ」についての学びを深める</p>			
授業計画	授業計画第1回	「Naritaマルシェ」の活動紹介: 立ち上げから現在までの歩みと学び		
	授業計画第2回	性別問わずあらゆる年代が集う理由について、受講生と対話しながら学ぶ		
学修に必要な準備	特に準備は必要ありません。			
テキスト	配布資料を使用します。			
履修上の注意	地域づくりへの夢と意欲をもって共に授業を創造してくださることを期待します。			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分		選択科目		
科目名称	事例研究: 成年後見制度とコミュニティソーシャルワーク			
担当者	千脇 隆志: 2コマ(3時間)			

テーマ	成年後見と権利擁護活動について、実践事例の紹介と演習での検討			
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職後見人(社会福祉士)としての実践事例について紹介しながら、権利擁護活動について学びます。 ・意思決定支援を踏まえた、後見事務について学びます。 ・権利擁護活動における、成年後見人(未成年後見人)の役割等について演習形式で検討します。 			
達成目標	成年後見や権利擁護に関する基本的な知識・技術等を理解することができる。			
授業計画	授業計画 第1回	成年後見制度における権利擁護活動について ～独立型社会福祉士権利擁護から～		
	授業計画 第2回	成年後見と権利擁護活動の実践について(演習を含む) ～意思決定支援として～		
学修に必要な準備	特段、準備等は必要ありません。			
テキスト	当日、資料を配布します。 講義の際は、パワーポイントを使用します。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分				選択科目
科目名称	事例研究:東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーク[遠隔授業]			
担当者	田中 慎吾:2コマ(3時間)			

テーマ	東京都豊島区における取組み紹介と演習形式による検討			
講義内容	豊島区民社会福祉協議会におけるコミュニティソーシャルワーク事業の実施体制、機能、実際の取組みや課題について紹介します。また、事例を用いた演習を通して、コミュニティソーシャルワーク実践の展開について、ともに考える場とします。			
達成目標	地域(地域性)の違いによって異なるコミュニティソーシャルワークの展開方法について理解を深める。演習を通して、コミュニティソーシャルワーカーとしての姿勢や視点について、受講生それぞれの立場や業務にひきつけて考えられるようになる。			
授業計画	授業計画第1回	(講義)東京都豊島区におけるコミュニティソーシャルワーカーの取組み紹介		
	授業計画第2回	(講義)複合的な課題を抱えた個人や家族へのアプローチ事例、ストレングス視点による地域での参加(活躍)支援事例、多機関協働による外国人支援プロジェクト、住民のつながりや主体性を育む場づくりなど		
学修に必要な準備	特にありません。			
テキスト	特にありません。講義の際はパワーポイントを使用します。			
履修上の注意				
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	○実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス			
授業開講年度	2026年度			
科目分類				事例研究
必選区分		選択科目		
科目名称	事例研究: ボランティア活動支援の実際			
担当者	渡邊 圭: 2コマ(3時間)			

テーマ	地域でのボランティア活動に対してCSWはどのような関わりができるかを考える			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアコーディネート、ボランティアマネジメントについての理解 2. 地域におけるボランティア活動に対するCSWとしての支援のあり方や関わり方を理解する 			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域におけるボランティア活動への支援の実態を理解する 2. ボランティア活動支援としてのボランティアコーディネート、ボランティアマネジメントについて理解する 			
授業計画	授業計画 第1回	ボランティア活動への支援の実際を理解する		
	授業計画 第2回	ボランティア活動支援に向けたCSWとしての役割と関わり方を理解する		
学修に必要な準備	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会のホームページに掲載の「ボランティアコーディネーターとはINDX」(https://jvca2001.org/whats_vco/)に掲載されている内容を確認してください。			
テキスト	講義時に配布する資料を基に講義を行うため特に必要はありません。			
履修上の注意	特になし			
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業		○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業	
	実務家教員や実務家による授業		実地での体験活動を伴う授業	
備考				

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス	
授業開講年度	2026年度	
科目分類		
必選区分	必修科目	
科目名称	ガイダンス	
担当者	渡邊 圭:1コマ(1.5時間)	

テーマ	本スキルアッププログラムの概要を理解する	
講義内容	本プログラムを受講するにあたって、プログラムの概要を理解する。そのうえで、自分がどのような学びを得たいと考えているのか目標像の設定を行う。また、円滑なプログラム受講のために学内の各種サービスの活用方法を知るツアーを実施する。	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1)本プログラムを学ぶにあたり、どのようなCSWの機能や役割を学ぶのか目標の設定ができる (2)本プログラムの概要を理解する (3)学内の各種施設の利用方法を理解する 	
授業計画	授業計画 第1回	CSWスキルアッププログラムで受講にあたって一概要理解、目標設定、学内サービスの理解一
学修に必要な準備	特になし	
テキスト	使用しません。	
履修上の注意	なし	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス	
授業開講年度	2026年度	
科目分類		
必選区分	必修科目	
科目名称	中間報告会(グループワーク)	
担当者	渡邊 圭:2コマ(3時間)	

テーマ	本スキルアッププログラムにおける学修状況の中間確認	
講義内容	CSWスキルアッププログラムの半年間の受講によって各受講生の学修成果の確認を行います。学修成果の確認にあたっては、事前提示の課題に基づくグループワークを実施し、コミュニティソーシャルワーカーとして求められる役割・機能について、受講生間で議論/意見交換を行います。	
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティソーシャルワークの機能やコミュニティソーシャルワーカーとして求められている役割を理解する 2. 本プログラムの学修成果等を中間地点で確認し、目指すコミュニティソーシャルワーカーとしての目標を設定する 3. 目標像の実現に向け、今後の本プログラムにおいて、何を身に付けるべきか/学修すべきかを検討し、中間報告以降の学修計画を立案する。 	
授業計画	授業計画第1回	地域共生社会にて求められるコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能の理解
	授業計画第2回	目指すべきコミュニティソーシャルワーカー像の設定と、グループワークを通しての全体共有
学修に必要な準備	受講開始時に立てた個人目標等(本プログラムを通して身に付けたいスキル・能力等)を再度確認のうえ、出席してください。	
テキスト	特にありません。必要に応じ、配付資料を準備します。	
履修上の注意	グループワーク、発表ともに積極的な参加を求めます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		

2026年度 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムシラバス

開講キャンパス	五橋キャンパス	
授業開講年度	2026年度	
科目分類		
必選区分	必修科目	
科目名称	最終報告会(グループワーク)	
担当者	渡邊 圭:2コマ(3時間)	

テーマ	本スキルアッププログラムでの「学び」の可視化	
講義内容	1年間のプログラムの学修成果の確認として自己評価を行い、その評価を受講生間で共有(言語化)することで、プログラムでの学修を踏まえ、地域福祉の推進に向けたコミュニティソーシャルワーク機能とその役割を理解する。	
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉推進にむけてのコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能を理解する 2. 本プログラムを通じて得られた成果—知識・技術—に関する自己評価を実施する 3. 本プログラムを通じて得られた学修成果及び自己評価を受講生間で共有し理解を深める 	
授業計画	授業計画第1回	地域福祉推進に向けたコミュニティソーシャルワーカーの役割・機能を理解する
	授業計画第2回	本プログラムによる学修成果の確認とその共有
学修に必要な準備	事前学修として、これまでのプログラムでの学びの振り返りを行う。	
テキスト	特にありません。必要に応じ、配付資料を準備します。	
履修上の注意	グループワーク、発表ともに積極的な参加を求めます。	
授業運営に関する方針	企業等と連携して行う授業	○双方向又は多方向に行われる討論を伴う授業
	実務家教員や実務家による授業	実地での体験活動を伴う授業
備考		